

財政援助団体等監査結果報告書

- 1 監査の対象 指定管理者 岸・北森・鉄工団地組合共同体
 管理施設 スカイパークこまつ翼
 所管課 国際文化交流部 スポーツ育成課

2 選定理由

スカイパークこまつ翼は、設立後、監査を実施していないことから監査対象とした。

- 3 監査の種別 公の施設の指定管理者監査

- 4 監査実施日 令和7年10月28日

- 5 監査実施場所 スカイパークこまつ翼

6 監査の範囲

令和6年度スカイパークこまつ翼の指定管理委託にかかる出納その他の事務の執行、事業の管理及び行政事務全般

- 7 監査の実施体制 監査委員 西村 一伸

 監査委員 高野 哲郎

8 監査の実施手続

監査にあたっては、あらかじめ必要と認めた事項を要記した監査資料及び関係帳票の提示を求め、学識経験者及び監査委員事務局職員が管理委託に関する内容等の閲覧、帳簿突合、質問及び現地確認等の予備監査を行った。

監査当日はスカイパークこまつ翼において、岸・北森・鉄工団地組合共同体関係職員並びに所管課である国際文化交流部長ほかスポーツ育成課関係職員同席の下、監査資料に基づき説明を受けた後、事務の執行状況等を聴取するとともに、質疑応答を交わした。

なお、この財政援助団体等監査において、地方自治法第199条第8項の規定により学識経験者として、北陸税理士会小松支部所属の税理士を選任し、予備調査を依頼した。その調査結果及び意見を聴き、これを監査の参考とした。

9 監査の着眼点

監査の主な着眼点は次の通りである。

- (1) 施設及び設備の維持管理は、仕様書等どおり適切かつ効率的に行なわれているか。
- (2) 利用促進ならびに利用者サービスの向上のための取り組みはなされているか。
- (3) 公の施設の管理にかかる収支会計経理は適正になされているか。また、他の事業との会計区分は明確になっているか。

- (4) 指定管理者に対する所管課の指導監督は適切に行われているか。
- (5) 施設の設置目的を効果的・効率的に達成するため、指定管理者制度が適切なプロセスを経て有効に執行されているか。

10 監査の結果

公の施設の管理に係る出納その他の事務の執行は、監査を実施した範囲においておおむね良好に執行がなされていると認められた。事務処理上にわたる注意事項は、監査の過程において当事者に指導したので本書には省略した。

11 監査の結果に添える意見

<スポーツ育成課>

スカイパークこまつ翼は、ソフトボール、サッカー、ラグビー、グラウンドゴルフ、パークゴルフといった多様なスポーツを幅広い世代が楽しめる施設であり、また白山の眺望や航空機を間近で観られる人気のスポットとしても親しまれている。

同施設は、平成 26 年以降、岸・北森・鉄工団地組合共同体が指定管理者として運営を担い、地域のスポーツ振興に一定の貢献を果たしている。

今回の監査での事務処理上の指摘事項の詳細は別に記載したとおりであるが、ここで、大きなところで以下 3 点を掲げる。1. 今年度はアンケート並びに施設利用に関する満足度調査がなされていない。2. 月間報告書において具体的な運営状況などについての検討が不十分である。3. 年間での利用者数の種目別での推移傾向分析が不十分、同じく施設利用料についてもその内訳について把握していない。

上記は形式的には協定書及び仕様書に従っての管理運営が不十分であり、実質的な観点からは、本来の市の資産の管理運用についての所管課の司令塔としての役割がなされているとは言い難いと考える。

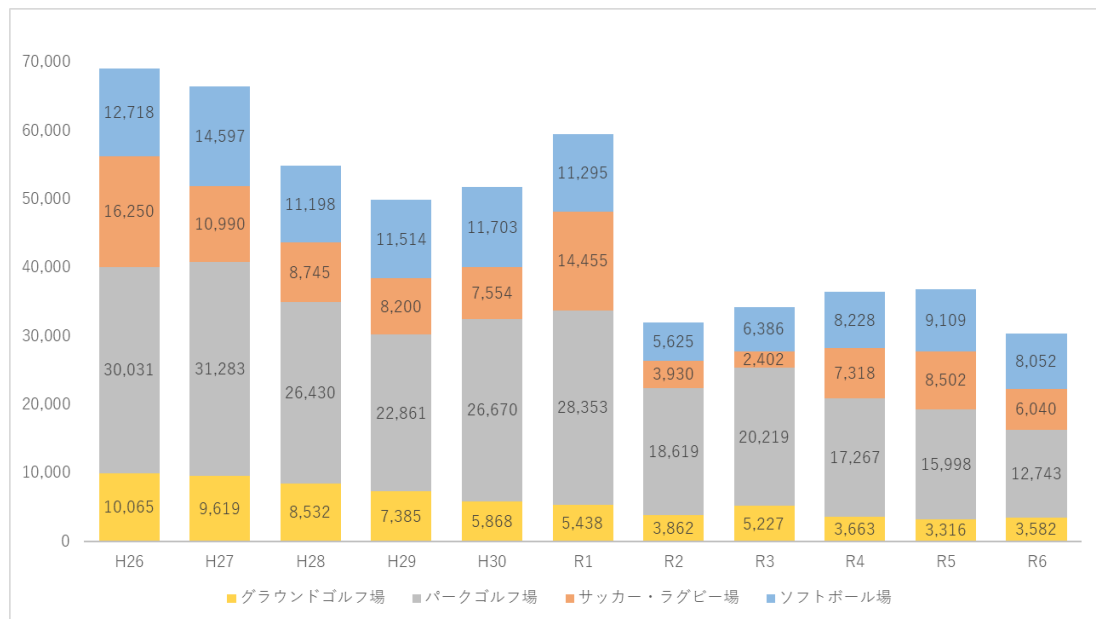
すなわち、小松市を取り巻く昨今の環境の変化、例えば、猛暑と二期化といわれる天候変化、社会的には少子化による子どもの減少と高齢化によるシルバー世代の増加、そして、小松市内のスポーツの枠組みでの部活動の在り方の変革などに対して、この施設をどの方向にどのように進めていくのかを決定し、進捗状況を確認しつつ改善しながらより良くしていくことが所管課の任務と考える。

つまりは、より多くの小松市民がこの施設を利用することで、仲間との楽しいひとときにおける幸福感と、そして健康維持がかなうように、具体的な施策を指定管理者と連携して進めていくことであり、そのためには、当然に指定管理者の運営を管理すると同時に、実際運営している現場からの意見を聞き検討することと、施設利用者の声を聴く姿勢をもち、その貴重な意見をくみとることが前提となるが、その点については上記に記載のとおり不十分であり、この点については所管課の奮起を大いに期待するものである。

そこでまずは所管課であるスポーツ育成課には、施設の利用実態に関する綿密な調査と現場のニーズや課題を的確に把握することを求めたい。

スカイパークこまつ翼 利用者数推移

種目	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
ソフトボール場	12,718	14,597	11,198	11,514	11,703	11,295	5,625	6,386	8,228	9,109	8,052
サッカー・ラグビー場	16,250	10,990	8,745	8,200	7,554	14,455	3,930	2,402	7,318	8,502	6,040
パークゴルフ場	30,031	31,283	26,430	22,861	26,670	28,353	18,619	20,219	17,267	15,998	12,743
グラウンドゴルフ場	10,065	9,619	8,532	7,385	5,868	5,438	3,862	5,227	3,663	3,316	3,582
計	69,064	66,489	54,905	49,960	51,795	59,541	32,036	34,234	36,476	36,925	30,417



近年の利用者総数の推移を見ると、令和元年度の 59,541 人に対し、コロナ禍の影響を受けた令和 2 年度には 32,036 人にまで落ち込み、その後、令和 3 年度、4 年度にはゆるやかな回復基調をたどってきた。しかしながら、令和 5 年度は 36,925 人と前年度より若干の増加にとどまり、令和 6 年度には 30,417 人と大きく減少している。

ここ 3 年間の種別で概観すると、ソフトボールは 8 千人から 9 千人台であり、サッカー・ラグビーは 7 千人台、8 千人台、6 千人台とぶれている。パークゴルフは 1 万 7 千人台から 1 万 2 千人台と大きく減少（27%減）し、これはピークの平成 27 年度の 3 万 1 千人台と比較すれば 60%減となる。グラウンドゴルフは 3 千人台でほぼ横ばいであるが、こちらもピークの平成 26 年度の 1 万人台からは 65%減となっている。

屋外施設であるため天候の影響を受けやすい側面はあるものの、まずはこれまでの推移と傾向を把握して、ここ数年間の伸び悩みと今年度の落ち込み原因を把握することが必要である。ソフトボールとサッカー・ラグビーについては、大会開催等の状況とルーチンで利用してくれるクラブやサークルの利用状況を把握し分析することである。一方、ゴルフ関係は、ピーク時より大きく落ち込んでいるという現実を直視することから始めることである。特にパークゴルフは当施設の半分ほどの集客数を誇ってきたことから、ここ 3 年間の落ち込み原因を、またグ

ラウンドゴルフは数年間で大きく沈んでしまった原因を見つけることが急務である。

具体的には、利用用途別、利用者の年齢層別や市内外居住地別、利用頻度別とゴルフについては年会員の動向など、多角的な視点から施設の利用傾向を把握したうえで、下記に記載したアンケートを実施し利用者の声を聴くことで利用者（潜在的な方も含む）のニーズをつかみ、定期的に月間報告書をもとにして指定管理者と所管課が意見を出し合うことが必要である。

つまり、定期的なレビューを実施し、指定管理者と所管課との間で運営上の課題や問題点を共有し、相互理解を深めることで、指定管理者への的確な指導と支援が可能となり、と同時に指定管理者側からは、現場からの意見や運営面からのノウハウについて率直な意見交換ができる関係性になることで、施設運営の一層の向上を図ることが可能となるはずである。

その過程において、最も大切なのは、利用者の意見である。日常的に利用者の声を収集し、それを施設運営に反映させることで、満足度の向上に努めることが望まれる。

その中から改善策として、新たな利用層をターゲットにしたイベントや企画の立案を検討するほか、料金体系や利用時間の柔軟な見直しや、他の類似施設との差別化など、利用促進に直結する有効な施策を講じることが期待される。

上記の運営施設の面だけでなく、公園としての機能、特にゴルフ場並みの手入れの行き届いた豊かな芝生の公園に着目して、市内のこども園や小学校の自衛隊への社会見学を兼ねての小遠足の利用や、また近隣の社会福祉施設や介護施設などの利用者の散歩や日光浴の利用等健康福祉面からのアプローチにも期待したい。

また、航空自衛隊の離着陸を望めるビューポイントである点のさらなる発信にも期待したい。

ただ、そもそもこの施設自体が小松市民にとって認知度がかなり低いと思われる。ゴルフのターゲット層である熟年世代から高齢者への浸透状況はどうか、サッカー等では各クラブや小中学校などへは利用できる施設として皆が認知しているか等、調査し分析したうえで、適切な告知をしていくことも施策を打つ前提として必要かと考える。

最後に、公共施設マネジメントの観点から、施設の維持管理や将来的な機能更新について、中長期的な視点に立った計画的な取り組みも必要である。限られた財源の中で最大の効果を得るためには、維持管理の最適化や設備機能の向上、費用対効果を考慮した投資の優先順位を明確にし、戦略的な施設運営を実現することが求められる。

以上を踏まえ、公平で透明性のある事務執行と指定管理者のノウハウを有効に活かした施設管理運営により、スカイパークこまつ翼が持つポテンシャルを最大限に引き出し、より魅力的で持続可能な施設運営が実現されることを大いに期待する。

＜岸・北森・鉄工団地組合共同体＞

スカイパークこまつ翼は、子どもから高齢者までの幅広い世代がスポーツやレクリエーションを通じて交流できる重要な施設である。現在、指定管理者である岸・北森・鉄工団地組合共同体が運営を担い、地域のスポーツ振興や健康増進に貢献しており、円滑な施設管理を実現している。今回の監査を通じて、同施設が今後その存在価値をさらに高め、ポテンシャルを最大限に発揮するためには、以下の点についても十分な配慮をお願いしたい。

今回の監査での事務処理上の指摘事項の詳細は別に記載したとおりであるが、ここで、大きなところで以下3点を掲げる。1. 今年度はアンケート並びに施設利用に関する満足度調査がなされていない。2. 月間報告書において具体的な運営状況などについての検討が不十分である。3. 年間での利用者数の種目別での推移傾向分析が不十分、同じく施設利用料についてもその内訳について把握していない。

上記は形式的には協定書及び仕様書に従っての管理運営が不十分であり、実質的な観点からは、所管課との深い密度の濃い連携がなされているとは言い難いと考ええる。

つまりは、より多くの小松市民がこの施設を利用することで、仲間との楽しいひとときにおける幸福感と、そして健康維持がかなうという目標を所管課とともに掲げ、具体的な施策を行った中で、またアンケートを実施することで施設利用者の生の声に耳を傾けることから、課題や問題点など現場からの意見を発し、また日々の運営の中からのノウハウや改善できる糸口を提案していくことなど、より積極的に踏み込んでいく姿勢に大いに期待するものである。

まず、利用者満足度の向上に向けては、日々の運営の中で利用者の声を積極的に反映させ、サービス改善に継続的に取り組むことが重要である。定期的にフィードバックを収集し、その結果をもとにした改善策を講じることで、施設のニーズを的確に捉えた運営が可能となる。

また、近年の社会環境の変化や利用者ニーズの多様化に対応するためには、施設の利便性向上と運営効率化を両立させることも求められる。具体的には、施設予約のオンライン化、キャッシュレス決済の導入、利用者アンケートのWeb化など、デジタル技術を積極的に活用することが効果的である。これにより、利用者がストレスなくより快適に施設を利用できる環境が整い、運営側も効率的に対応できるようになる。

加えて、すべての人が安心して利用できる施設とするためには、インクルーシブな視点を持つことも不可欠である。特に障がいのある方や高齢者への配慮を一層強化し、関係団体との連携を深めることで、共生社会の実現に寄与する施設としての役割を果たすことができる。

そして、所管課に対する意見においても触れているが、これまでの利用者数の推移と傾向を的確に把握するため、利用用途別、利用者の年齢層別や市内外居住

地別、利用頻度別、ゴルフについては年会員の動向など、多角的な視点から施設の利用傾向を分析することが大切である。その結果については、所管課と適切に共有を図ることで、今後のより効果的な事業運営に結び付けていただきたい。

さらに、施設の魅力や利用メリットを広く伝えるためには、戦略的な情報発信が欠かせない。

ホームページやＳＮＳなどのメディアを効果的に活用し、これまで利用機会が少なかった層へのアプローチを行うことで、潜在的な利用者の掘り起こしが進み、施設の利用促進につなげてほしい。また、航空機のビューポイントとしての特色を生かしたイベントや企画を展開することで、他の施設では味わえない独自の魅力を引き出すことも可能となる。こうした取り組みについては、所管課と十分に協議を重ね、具体的な施策を今後検討されることをお勧めしたい。

以上を踏まえ、施設管理者が持つ高度な施設管理技術を存分に発揮しながら、創意工夫を凝らした運営を実践することで、スカイパークこまつ翼のさらなる発展が期待できる。所管課との密な連携のもと、なお一層の努力をお願いしたい。